

令和元年度地方創生推進交付金事業 幸手市郷土愛醸成・魅力発信事業検証結果

交付対象事業の名称及び事業内容	重要業績評価指標(KPI)※令和2年3月末時点		
	評価指標	令和元年度目標値	実績値
事業名:幸手市郷土愛醸成・魅力発信事業 【事業内容】 ・地域再生計画(計画期間 平成29年度～令和元年度)の認定事業 ・国内外の観光客及び住民に対し、幸手市の観光、歴史的な資源を活用し、幸手市の魅力を体感してみたいと思わせる効果的なPR動画を作成し、発信する。 ・日光街道の宿場町の名残のあるまちなかにおいて、地元芸術家を中心としたNPO法人の協力のもとアートを展示し、交流人口の増加を図る。 ・郷土資料館で幸手の歴史的な地域資源を活かしたものづくりの体験ができる講座を実施し、郷土に対する愛着を醸成する。 ・旧幸手町立吉田中学校校舎(現在の民具資料館)を歴史的に保存し、有効活用する方法を官学連携により研究する。	権現堂年間観光客数(人)	平成28年度と比較して 139,000人増 (総数 1,950,000人)	平成28年度実績と比較して 268,250人増 (令和元年度実績 2,079,250人) (平成30年度実績 2,248,750人) (平成29年度実績 2,012,000人) (平成28年度実績 1,811,000人)
【令和元年度実施内容】 ①令和元年度アートさんぽ展の実施(事業費 451,046円) まちなかの店舗棟に市及び近隣在住の作家の芸術作品を展示し、市内外の者が芸術作品を鑑賞等することで、身近にアートを体験し、中心市街地の活性化及び回遊促進を図った。 ・展示箇所20か所 平成31年4月1日(月)～4月7日(日) 来場者数 9,630人 ・平成30年度と比較して新たに行った試み (i) 学生作家枠を2人から7人に拡大 (ii) 映像作家の参加 (iii) 日本工業大学の学生5名の幸手市における建築設計課題の作品展示 ②郷土資料館関係事業(事業費 505,000円) ・幸手の歴史体験学習講座(ものづくり体験講座「わらで作る正月かざり」)の実施 ・機織り体験市民ボランティア養成講座の実施 平成30年度から開始された初心者向けの機織り体験講座を経て参加者が体験学習市民ボランティアとなった方に対して、「ものづくり体験学習(機織り体験)市民ボランティアスキルアップ講座」の実施を企画したが、コロナウイルス感染症拡大防止のため、講座を開催できなかった。 ・郷土資料館収蔵資料調査事業の実施 郷土資料館収蔵資料の保存と活用を図るため、史料専門員のもと、未整理古文書等の修理と調査を行うとともに、古文書整理市民ボランティアの養成を行った。 ③旧吉田中学校木造校舎再生事業検討事業費補助事業の実施(事業費 502,161円) 旧吉田中学校木造校舎の保存及び有効活用の方法の研究を日本工業大学と官学連携により実施した。 ・旧吉田中学校校舎が第2次世界大戦まもない時期に建設された木造校舎としていかに貴重な存在であるかを文献等で確認した。 ・旧吉田中学校校舎が地域住民にとっていかに思い出深い建築物であるかを卒業生及び旧教員への聞き取り調査を行った。 ・旧吉田中学校木造校舎を再整備し、有効活用する場合に参考となり得る3事例について実地調査を行った。 3事例 (i) あしがくぼ笑楽校(埼玉県横瀬町) (ii) 鳥海山おもちゃ美術館(秋田県由利本荘市) (iii) もうひとつの美術館(栃木県那須郡那珂川町) ・平成30年度に復元設計を行った生徒用の机・椅子の復元製作を行った。	郷土資料館来館者数(人) ※毎年度の増加分を目標値設定 ※郷土資料館については、平成30年10月23日(開館日)以降	平成29年度と比較して 2,000人増 (目標総人数 2,000人)	平成29年度実績と比較して 2,166人増 (令和元年度実績 6,272人) (平成30年度実績 4,166人)
	人口の社会動態減少数(人) ※毎年度の減少数の減数(改善値)を目標値設定	65人	対前年度比 121人 (令和元年度実績 減少数93人) (平成30年度実績 減少数214人) (平成29年度実績 減少数145人)
令和元年度事業費(事業費に対する地方創生推進交付金の額 補助率1/2)	事業費 1,458,207円	地方創生推進交付金充当額 729,103円	
幸手市まち・ひと・しごと創生市民会議委員の意見	国内外の観光客及び住民の利便性を考えると、駅周辺の整備として駅外にトイレを設置した方がよいと思う。時代にあった地域活性化事業を実施していく必要があると思う。コロナウイルス感染症拡大防止の観点とイベントなどの事業の実施をどう両立させていくのが課題であると思う。		